

は じ め に

福井県衛生環境研究センターは、本県の保健行政や環境行政を科学的・技術的に支える中核機関として、衛生・環境に係る「調査研究」、「試験・検査・測定」、「研修・指導・学習」および「情報の収集・解析・提供」の4つの役割を軸に、日々業務に取り組んでいます。

このたび、令和5年度に実施した試験・検査業務の実績および調査研究の成果等を、「福井県衛生環境研究センター年報（第22巻）」としてとりまとめました。

特に当年度は、新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、次の新興感染症等が発生・まん延した際に円滑に対応するため「健康危機対処計画」を新たに策定しました。現在、この計画に基づき、試薬や器材の備蓄、検査機器の計画的更新、検査要員の養成、情報解析体制の整備など有事に備えた体制の強化を進めているところです。

また、調査研究においては、感染症に関する研究、自然毒など食品衛生に関する研究、化学物質や湖沼水質保全といった環境問題に関する研究など、多岐にわたる課題に取り組んでいるところですが、特に当年度においては、先行研究を含め10年間の長期にわたり実施してきた福井県のPM_{2.5}発生源に係る研究が最終年度を迎え、寄与発生源および越境汚染の実態を総括しました。

これらの業務に加え、全国の地方環境研究所で構成される全国環境研協議会の会長機関として、協議会の運営を担うとともに、新型コロナウイルス感染症の収束を踏まえた対面交流の再開や、地方環境研究所が抱える諸課題について国や国立環境研究所に要望を行うなど、今後の地方環境研究所の活性化に向けた取組みに努めました。

最後に、現在、当センターではSNSを利用した情報発信や県民向けの教育活動に力を入れ、業務に対する県民の認知度の拡大に努めています。引き続き、御理解と御協力いただくよう何卒お願いいたします。

令和7年2月

福井県衛生環境研究センター所長 村田 健